

- 1 教育事業名 「とかしきボランティアスクール」
- 2 ね ら い 自然体験活動や集団宿泊活動を通して、未来を担う青少年に対して、「社会で生きる力」及び「新しい社会を築く力」を養うことを教育の目的とする。
- 3 期 日 令和4年10月8日（土）～10月9日（日） 1泊2日
- 4 場 所 国立沖縄青少年交流の家
- 5 募集定員 30名程度
- 6 参加人数 24名
- 7 参加者内訳 高校生10名 大学生13名 社会人1名
- 8 講 師 張本 文昭 氏(沖縄県立芸術大学全学教育センター 教授)
木島 悠太郎 氏(一般社団法人 JAPAN WATER PATROL)
山里 望 氏(国立沖縄青少年交流の家 所長)

9 実施プログラム

10月8日	潮汐:中潮 満潮17:57(200cm) 干潮11:40(26cm)									
	10:00		12:00	13:00	14:30	16:30	18:00	19:00	20:00	
	9:00から乗船開始 (とまりんターミナル)	フェリー	移動 開校式	弁当	講義①	ボランティア活動の技術 海洋研修 野外炊事		夕食 片付	移動 入浴	講義②
10月9日	潮汐:大潮 満潮5:57(204cm) 干潮12:15(28cm)									
	7:30		8:30	11:30	12:30	14:00	15:00	15:30	〔講義内容〕	
	起床 活動準備	朝食 清掃	講義・演習③	昼食	講義④	講義⑤	閉校式 移動	フェリー	講義① 青少年教育 講義② 青少年教育施設におけるボランティア活動 講義③ 安全管理 講義④ ボランティア活動の意義 講義⑤ 青少年教育施設の現状と運営	

※日程および内容については、都合により変更になる場合があります。

10 事業の様子



青少年教育



大型カヌー体験



野外炊事



アイスブレイク



先輩ボランティアから学ぶ



安全管理



班別協議（ボランティアの意義）



修了書授与



研修を終えて

11 参加者の声（アンケートより）

- ・タイトなスケジュールだったが、楽しめた。
- ・いろいろな体験活動があり、楽しみながら学べ、交流できた。
- ・教育の本質、体験を通して学ぶことの必要性を知ることができた。（青少年教育）
- ・カヌーの乗り方のポイントなど、実際に行ってみないとわからないことを感じた。（ボランティアの技術）
- ・先輩ボランティアから具体的な活動について聞いて良かった。（青少年教育施設におけるボランティア）
- ・体験を通して技術を学べたのでとてもよかった。実際に行動できるか心配。（安全管理）
- ・実際ボランティアでどのような行動をとったらいいのか考えることができた。（ボランティアの意義）
- ・自主性など普段考えないことだったのでおもしろかった。（青少年教育施設の現状と課題）

12 担当者所見

（1）成果

- ・昨年度の課題であった年齢や男女の偏りを解消するため、募集の際に高校生と一般の枠を設けた。今後は大学生を中心としたボランティア活動を推進したい。
- ・小学校の体育館で講義を行った。今後教育への関わりを希望する参加者に離島の小中学校の雰囲気を感じてもらうことができた。
- ・先輩ボランティアがボランティアスタッフとして参加していたため、参加者がボランティアの活動内容や役割をイメージしやすかったように感じた。
- ・意欲的な参加者が多く、今後の活躍につなげていきたい。

（2）課題

- ・今年度もコロナウイルス感染症の影響により事業を5月から10月に延期して開催した。11月にボランティア自主企画事業開催の予定があるため、年度当初に実施、事業で経験を積み、自主企画事業の計画という流れを作りたい。
- ・船舶での移動を考えると、週末2日間での開催では日程が過密になる。いくつかの講義を事前、事後にオンラインで実施するなどの日程調整が必要である。